

接し方を変えるだけで 伝わる

認知症の人や家族を見守るのが認知症サポーターです。住み慣れた場所で安心して暮らしていくには、周りの人の理解が欠かせません。

認知症サポーター養成講座の講師として新型コロナウイルスが流行する前は、学校や企業などで年間約50回講演していました。認知症は何もできなくなる訳ではなく、関わり方が鍵になります。例えば、高齢者は高い音を聞き取れなくなることが多く、低めの声でゆっくりと話すとうちわります。

一人一人が正しい知識を学ぶことが大切です。将来の自分たちのためにもなります。受講者からは、「接し方を変えたら関係が良くなった」などの声もよく聞きます。講座に参

久留米市キャラバン・メイト
連絡会
理事長
堀江桃子さん



加したり、「久留米市認知症支援ガイドブック」などを参考にしたりすることで、みんなの理解が深まり誰もが安心して暮らせるまちになってほしいと思っています。

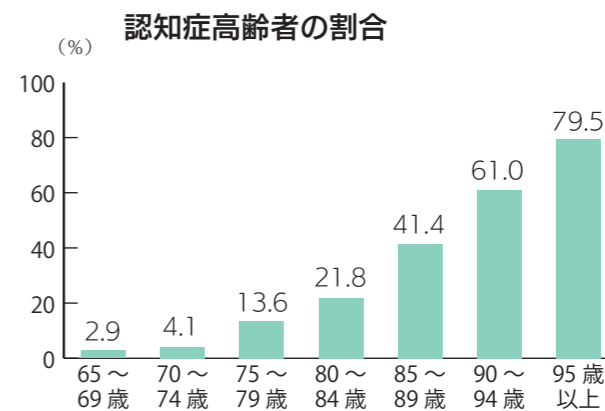
【認知症サポーター養成講座】

市は、地域や団体、学校などで養成講座を開催しています。講座を受けると症状や予防、接し方などを知ることができます。詳しくは市ホームページで確認してください。
詳細はこちら→



認知症と共に 安心して暮らす

正しい知識を身に付け、理解する



出典・厚生労働科学研究「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」

厚生労働省によると、令和7年には65歳以上の5人に1人は認知症になると推計されています。認知症は誰もがなりうるものです。一人一人が正しく理解することが大切です。

同じ社会の一員として

認知症は、脳の病気や障害などによって、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。現れる症状や特徴はさまざま。高齢者に多く見られますが、若くして発症する「若年性認知症」もあります。

9月1日現在、久留米市の65歳



認知症予防・サポートクラブ
副代表
塩月基夫さん

人と会うことで予防に

市内には6カ所の認知症カフェがあります。認知症の人と家族が気軽に立ち寄ることができ、地域の人たちとつながるきっかけができる場所です。

るし、誰もが安全に暮らすことのできるまちづくりにもつながります。カフェを、誰もが集える楽しくて、居心地のいい場所になれるようにしていきたいです。

【認知症カフェ開設講座を実施】

市は、認知症カフェ開設講座の参加者を募集しています。10月から3月まで全5回、開設講座を行います。詳しくは市ホームページで確認してください。

詳細はこちら→



今年の11月から新しく認知症予防カフェ「カフェしらとり」をオープンします。カフェの魅力は、計算や脳トレなどの認知症予防はもちろん、歌やおしゃべりができるところです。人と会うことが認知症の予防になるともいわれています。家族介護している人の負担も軽減したいですね。医療や介護の専門職、介護経験者などが相談も受けます。

認知症カフェの利用者が増えることで、住民同士が顔の見える関係をつくることができます。周囲とつながることで、孤立化も防げ



認知症カフェでは、予防のための体操や計算、相談なども行っています。

成年後見人を支援

認知症や知的・精神障害などによって判断能力が低下すると、不利な契約を結ばれたり、詐欺などの犯罪に遭ったりする危険性が高まります。成年後見制度は、法律に基づき家庭裁判所が、判断能力の程度に応じて本人の代わりに財産管理や契約を行う成年後見人などを選任し、地域で安心して暮らせるように支援するものです。

制度に関する相談や普及啓発活動を行っているのが、総合福祉センター内にある成年後見センターです。10月から新たに成年後見人などに対する相談支援を始めます。後見人の活動や裁判所に提出する書類の書き方など、疑問や困りごとが発生した場合に、電話や窓口で相談できます。詳しくは問い合わせ先を確認してください。

845)

市は認知症サポーター養成講座や認知症カフェ、介護電話相談、成年後見制度やそのサポートなどいろいろな取り組みを行っています。認知症があってもなくても同じ社会の一員として地域を共につくることのできる社会を目指します。

◎長寿支援課 ☎0942・309207、FAX0942・3666

◎成年後見センター ☎0942・302732、FAX0942・343090